

新創開館5周年 記念特別展

根津美術館では今秋、新創開館5周年記念特別展として、「名画を切り、名器を継ぐ―美術にみる愛蔵のかたち―」を開催いたします。

今日私たちが目にしている古美術品は、長い年月を人から人へと受け継がれてきました。その過程で、経年変化や、所有した人あるいは時代の好みによって、補修され、改変されたものが少なくありません。実はそのことが、私たちが今日当たり前のように享受している作品のあり方や鑑賞スタイル、美しさの感じ方にひとかたならぬ影響を与えているのです。

たとえば書画の作品では、長い巻物を分断して掛物に仕立てることによって、個人的な鑑賞の形式から、同座する人たちと鑑賞体験を分かち合うスタイルへと変化し、冊子や巻物であった歌書や写経を切り離し貼り込んだ「手鑑」は、名筆を一覧できる保存装置となりました。また、室内を飾っていた障壁画を屏風として残すことにより、建物が失われても絵画はその命を永らえたという例もあります。↓

美術にみる
愛蔵のかたち

名画を切り 名器を継ぐ

2014年
9月20日(土)〜
11月3日(月・祝)

休館日

月曜日、ただし

10月13日、11月3日(月・祝)は開館

10月14日(火)休館

根津美術館
NEZUMUSEUM



↓ 工芸の分野では、古の名刀を自らの身の丈にあうような寸法に直したり、貴重な中国の絹織物の小さな端切れまで丁寧に継いで名物茶入の仕覆とするなど、大切に受け継ぎつつ用いてきた歴史があります。茶碗にいたっては、傷や継ぎすらも風情や見どころとして、積極的に美しさを感じようとする姿勢さえみられるのです。

本展は、將軍や茶人をはじめとする所有者たちによる改変が、どれほどの深い愛情と驚くほどの創造力をもって行なわれたかを、国宝4件、重要文化財35件を含む約100件の名品によって知る機会といたします。

右：大井戸茶碗 銘須弥別銘十文字 1口
朝鮮・朝鮮時代 16世紀東京三井記念美術館蔵
上：重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 斎宮女御歌分 1幅
日本鎌倉時代 13世紀 個人蔵



「名画を切り、名器を継ぐ —美術にみる愛蔵のかたち—」

【9/20~10/13, 10/28~11/3 展示】



きたけぼんさんじゅうろっかせんえ
佐竹本三十六歌仙絵
さいくらのにょうご
齋宮女御
1幅
日本・鎌倉時代
13世紀
個人蔵

秋田佐竹侯に伝えたことから佐竹本と呼ばれる現存最古の三十六歌仙絵(2巻)の断簡。高額すぎて買手がつかず、大正8年(1919)に各歌仙ごとに切断した。唯一背景を伴う華麗なこの図には最高の値が付けられ、最終的には実業家茶人として名高い益田鈍翁(孝・1848~1938)が手に入れた。

重要文化財

【通期展示】

ほんがんじぼんさんじゅうろくにんかしよう
本願寺本三十六人家集のうちの「伊勢集」と「貫之集・下」の2帖を、昭和4年にページごとに分割し、財界人らに売却して、西本願寺が女子大学を創設するための資金とした。なかでもこの見開き2ページ分の断簡は、書と料紙装飾の技術の高さを示す名幅としてよく知られている。

いしやまざれ
石山切 伊勢集
ふじわらのきんとう
伝藤原公任筆
1幅
日本・平安時代
12世紀
東京・梅澤記念館蔵



【9/20~10/19 展示】

国宝



しょうしょうはつけいす ぎよせんせきしやう
瀟湘八景図 漁村夕照
もつげい
牧谿筆
1幅
中国・南宋時代
13世紀
根津美術館蔵

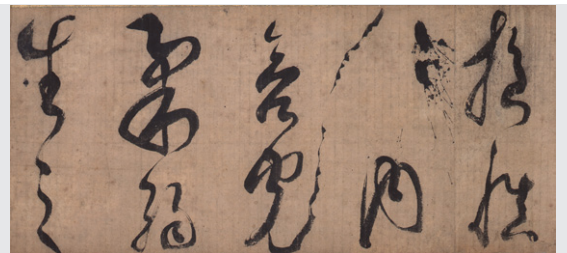
足利將軍家に所蔵されていた大小2軸の牧谿の瀟湘八景図巻のうち、4図が現存する大軸の1図。足利義満(1358~1408)の所蔵を示す「道有」印が捺される。名画の切断はこの頃から始まった。

重要文化財

【9/20~10/13 展示】

ちゆうご さいえん
中国・後漢の政治家 崔瑗(子玉)の座右銘100字を、空海(弘法大師)が草書で書いた巻物の一部。この1巻を入手した狩野探幽(1602~74)は前後に高野山と和歌の浦の景を描き、のちの所有者、益田鈍翁はこれを披露するために「大師会茶会」を始めた。この茶会は、今年第100回を記録した。

さいしぎよくざゆうのめいだんかん
崔子玉座右銘断簡(部分)
くうかい
空海筆
1巻
日本・平安時代
9世紀
東京・大師会蔵



さんじやうどのようちのまき
「三条殿夜討巻」(ボストン美術館蔵)などと同じセットとして制作された「六波羅合戦巻」の断簡。この巻の絵は、破損した1巻から切り取ったと推定される14図の小画面しか現存しない。洋画家 安井曾太郎旧蔵の1幅。

へいじものがたりえまき ろくはらかっせんのみまき
平治物語絵巻 六波羅合戦巻断簡
1幅
日本・鎌倉時代
13世紀
個人蔵

【通期展示】



重要文化財 【通期展示】

あからくちやわん
赤楽茶碗
銘 乙御前
ほんあみこうえつ
本阿弥光悦作
1口
日本・江戸時代
17世紀
個人蔵



光悦(1558~1637)作の赤楽茶碗の名品。銘の「乙御前」とは、おたふくのこと。ふつくと丸い姿や、高台が凹んでいる様子がおたふくの低い鼻のようであることから付いたともいわれる。制作時からの窯割れがみられるが、それを問題とせず、むしろ味わいとしている。

【9/20~10/13 展示】

しのぢやわん
志野茶碗
銘 もも
1口
日本・桃山時代 16世紀
昭和11年(1936)
個人蔵



昭和11年(1936)、実業家茶人 益田鈍翁(ますだどんのう)(1848~1938)の90歳の記念に贈られた。桃山時代の志野茶碗に、同時代の異なる志野茶碗の陶片を組み入れた「呼び継ぎ」の茶碗。大胆で巧みな金継ぎが、魅力となっている。

【通期展示】

あからくちやわん
赤楽茶碗
銘 木守
ちようじろう せいにいゆう
長次郎 惺入補造
1口
日本・桃山時代 16世紀
昭和9年(1934)
香川・高松松平家歴史資料



せんそうたん むしやのこうじせんけ
千宗旦(1578~1658)から武者小路千家に伝わり、のちに高松松平家に献上された。長次郎による赤楽茶碗の典型として伝えられた。関東大震災で罹災し破片となってしまったが、昭和9年(1934)、その破片のひとつを組み込んで楽家13代惺入がもとの形に再生した。

【通期展示】

おおいどぢやわん
大井戸茶碗
銘 須弥
しゆみ
(別銘 十文字)
じゆうもんじ
1口
朝鮮・朝鮮時代
16世紀
東京・三井記念美術館蔵



茶碗を十文字に切り、寸法を縮めて漆で継いだ茶碗。茶碗としては大きすぎたために行なったのであろうか。持ち主のこだわりが感じられると同時に、改変されてなお見所がある茶碗である。古田織部の所持と伝わる。

【通期展示】



はくじつぽ
白磁壺
1口
朝鮮・朝鮮時代
17-18世紀
大阪市立東洋陶磁美術館蔵



しがなおや
作家の志賀直哉(1883~1971)の旧蔵品として知られる。1995年に盗難に遭い、その際に破壊された。事件後、警察が証拠として採集した陶片を、のちに修復したところ、奇跡的に以前と変わらぬ姿でよみがえった。

【通期展示】

せいぢらうかぼたんからくさもんへい
青磁貼花牡丹唐草文瓶
りゆうせんよう
龍泉窯
1口
中国・南宋~元時代
13-14世紀
京都・北野天満宮蔵



天満宮の総本社である京都・北野天満宮に伝わる青磁瓶。このような大型の青磁瓶は京都や鎌倉の有力寺社に伝わる作例が多い。頸の部分の修理は、北野社と深い繋がりをもった豊臣秀吉(1537~1598)がさせたものと伝えられる。

同時開催

展示室5

「源氏絵と伊勢絵」

伊勢物語と源氏物語はいずれも、物語の成立後まもなく絵にあらわされ、描き継がれました。近世の源氏絵、伊勢絵を展示します。



げんじものがたりがじょう わかむらさき
源氏物語画帖 若紫

伝土佐光起筆

1帖

日本・江戸時代 17世紀

根津美術館蔵

光源氏が幼い紫の上をはじめて目にする場面。こうした源氏物語の名場面を多数集めた画帖が室町時代以降たいへん好まれた。



いせものがたりずひようぶ

伊勢物語図屏風(部分) 8曲1双のうち 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

伊勢物語のうち49場面を描く屏風。唇のわずかな朱をのぞきモチーフはすべて墨で描かれる。源氏物語図屏風とセットになっている。

展示室6

「秋光を楽しむ茶」

自然がおだやかな秋の光に包まれる頃、紅葉や菊が枯野を彩り、月影が茶室を照らします。晩秋を楽しむ茶道具約20件の取り合せ。



まさきでちやいれ 正木 瀬戸 1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

赤褐色と黄味がかった二色の釉が斜めに流れて景色となり、その色替わりが絶妙である。正木の紅葉をイメージして、この銘がつけられた。



えしの みずさし
絵志野水指 美濃 1口
日本・桃山～江戸時代 16-17世紀
根津美術館蔵

白い釉のかかる胴には、鉄を含んだ絵具で秋草がのびやかに描かれる。力強さと華やかさを合わせ持つ、志野を代表する作品。

関連プログラム

- 【講演会1】 「書画への愛ゆえに」
日時 9月27日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 松原 茂 (根津美術館 学芸部長)
- 【講演会2】 「工芸品にみる修理と改変」
日時 10月4日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 多比羅 菜美子 (根津美術館 学芸員) 会場はいずれも根津美術館講堂 (定員各130名)
- (申し込み方法) 往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会1」または「講演会2」と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「名画を切り、名器を継ぐ」展講演会係宛にお申込みください。
*「講演会1」は9月13日(土)、「講演会2」は9月20日(土)締切(当日消印有効)
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復葉書でお申込みください。
- 【スライドレクチャー】 日時 10月3日(金) 松原 茂・多比羅 菜美子
10月17日(金) 松原 茂・多比羅 菜美子 いずれも午後1時30分から約60分
場所 根津美術館 講堂 (先着130名)
※講演会・スライドレクチャーとも聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 新創開館5周年記念特別展「名画を切り、名器を継ぐ —美術にみる愛蔵のかたち—」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2014年 9月20日(土)～11月3日(月・祝)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし10/13、11/3(月・祝)は開館、10/14(火)は休館
- 【入館料】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券等】 ・前売り券1枚:一般1100円 学生900円
2014年7月26日(土)～9月7日(日)「涼風献上 —絵とやきもので暑中お見舞い—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
■展示替えがありますので、複数回ご来館いただくのにお得な「割引チケット」をご用意いたします。■
・前売り券2枚セット:セット価格 一般2000円 学生1600円 (通常価格 それぞれ2200円 1800円)
「涼風献上」展会期中、ミュージアムショップにて販売。
・「またどうぞ券」:一般1000円 学生800円 (同上 1200円 1000円)
「名画を切り、名器を継ぐ」展会期中、ご入館された方にミュージアムショップにて販売。
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



コレクション展

誰が袖図 —描かれた着物—

2014年 11月13日(木)～12月23日(火・祝)

衣桁にかけられたきものを主題とする「誰が袖図屏風」を中心に、近世の風俗画を展示。

誰が袖図屏風 6曲1双 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当: 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp